

三重県防災会議専門部会「防災・減災対策検討会議」(平成26年度第1回)  
議事概要

日 時：平成26年7月23日(水)9:40～11:30  
場 所：ホテルグリーンパーク津「藤・萩」

**出席者(50音順)**

川口委員、河田委員、草野委員、葛葉委員、新谷委員、高瀬委員、中条委員、畑中委員、松田委員、室崎委員、森委員、若林委員、稲垣委員、以上13名

**運営要領の改正及び委員長の選任について**

風水害対策について加筆した運営要領の改正案を提案し、了承された。  
続いて、委員長として河田委員を選任した。

**三重県地域防災計画(風水害等対策編)の見直しについて**

わかりやすい項立て、見出しにすることが重要である。

米国では、2001年9月に発生したテロ事件を未然に防げなかったことから、事前対策を重視した取組を進めていた。

しかし、2005年8月のハリケーン・カトリーナでは、関係機関が別々の行動をとったこと、避難命令を出すタイミングが不明確であったこと等から、甚大な被害につながった。

こうした反省をふまえて、2012年12月のハリケーン・サンディでは、タイムラインを導入した結果、上陸36時間前に州知事より避難勧告を発表して人的被害を大幅に減らすことに成功したほか、前日に地下鉄の運転を止めて全車両を陸上に上げたことにより、駅構内は浸水したが1週間後には95%の仮復旧をすることができた等の成果をあげた。

**三重県新風水害対策計画(仮称)の策定について**

課題解決テーマについては、平易な言葉を用いながら、なぜ、このテーマを掲げたのかを県民に分かりやすく示すことが大事である。

災害の発生により、地域の経済が衰退しないような手立てが必要である。  
河川の水位など、局所的な情報を収集していくことが大切である。住民からもローカルな情報を得るなど、地域の情報を吸い上げる対策が求められる。

タイムラインの導入にあたっては、県民、学校、事業者など多くの関係者との間で、対策のためのルールについて、しっかりとした議論が必要である。

観光客へのケアの視点も必要である。

課題解決テーマはそれぞれがバラバラのものではなく、例えば、防災人材の育成・強化の取組が、他のテーマにも効くなど、6つのテーマの関連性を大事にしてほしい。

高齢者や障がい者の入所施設は、山間部など土砂災害の危険が高い地域に立地していることが多い。事前避難を行う際、どこにどのように避難するのかなど、個別の支援計画が必要である。対策の検討にあたっては、福祉部門と連携を深めてほしい。

災害関連情報については、行政と病院の連携、情報共有のほか、病院間での連携、情報共有も必要である。

これまで誰も水位を確認してこなかったような、1、2級以外の小さな河川であっても、局地的大雨により、氾濫すれば被害を招く。今後、対策を検討していくことが必要である。

風水害で死者を出した過去の事例では、被害にあう人の2 / 3が男性であった。2 / 3が高齢者であった。2 / 3が屋外で被害にあった。共通項としては、台風が来ている最中に高齢者の男性が田畑を見に行くなど、無鉄砲な行動で被害にあっている。このような犠牲者を出さないというアプローチも必要である。

気象予測を画期的に向上させることは技術的に困難である。そのため、今ある資源の活用の仕方が大事で、防災気象情報の表現方法や出し方の工夫などの検討が必要である。

災害時には、リスクコミュニケーションが何よりも大事である。知事や市町長が、メディアの前で直接、住民に訴えることが避難行動の促進に直結する。

以 上